

「伝統・文化」体感型ワークショップ 【研修編②】

和楽器「箏」の魅力、響きを味わう（受講者 44 名）

講 師： 菊珠 三奈子

実施日： 平成 22 年 8 月 9 日(月) [基礎編] / 8 月 10 日 (火) [応用編]

- =====
- 目 的： ・日本の伝統や文化を尊重する意義を知る。
・和楽器・箏の構造、歴史等、指導上必要な事項を学ぶ。
・和楽器・箏の【基本奏法・応用奏法】を学び箏の楽曲を演奏できるようにする。
・現場の授業をシミュレートし、授業における和楽器「箏」の活用法を学ぶ。
- 期待される効果：
・学校における伝統音楽の指導の工夫改善を図る契機となる。
- [基礎編] ・楽器の準備や姿勢などの授業の導入から、楽譜の読み方、箏の特徴的な奏法など指導力の向上が期待できる。
- [応用編] ・箏の演奏技能や知識をより深め、技術力、指導力の向上が期待できる。
・「箏」の表現力の豊かさを体験し、教員が和楽器や伝統・文化のよさを感じ取るとともに、学校や児童・生徒の実態に応じた授業展開を計画・実施できる力を身に付ける。
- 準備教材・設備等：
箏一式、楽譜、箏爪、譜面台、立奏台、椅子

■ 研修の流れ

[基礎編] (@6 時間×1 日)

箏の取り扱い及び準備の説明



箏の種類、部位、奏法、楽譜の読み方等の解説



様々な奏法（トレモロ、スタッカートなど）の演習



昨年の受講生が創作した曲の演習及び創作演習・発表

[応用編] (@6 時間×1 日)

調弦、基本奏法の演習「練習曲」「かぞえうた」「糸車」「さくらさくら」



「六段の調べ」「さくら変奏曲」の演習



さまざまな奏法の解説（トレモロ、ピッチカート、スタッカート他）



十七弦箏の解説、「さくら変奏曲」を一箏・二箏・十七弦箏で合奏



「春の海」の解説と演習



昨年の受講生が創作した曲の演習及び創作演習・発表

■ Advice points

- ・楽器（箏）の授業における可能性に気付いてほしい。
- ・楽器（箏）が温度や湿度により変化するなど、楽器の取り扱いを知る必要がある。

■講師の感想（要約）

授業に直結する奏法の演習を行った。受講生は予想を上回る習熟度であり、短い時間であったが、技術向上ができた研修であった。また、器楽、創作、鑑賞と幅広い授業の展開を視野に入れ、「箏」の授業における可能性に気付いていただけたと考える。今後も、学校現場の先生方の意見を伺い、箏を通じてこれまでにない音文化の発見や我が国の伝統・文化のよさを伝える指導方法を構築したい。

■受講者の感想（抜粋・要約）

[基礎編]

- ・初めて箏で創作したが、曲作りがそれほど難しいものでないことを知った。
- ・同じ楽譜でも調子が変わると曲の雰囲気はかなり変わることを発見した。創作曲もいろいろな調子で弾いてみようと思いがわいた。
- ・楽譜に頼らず、さまざまな音階が楽しめる箏の可能性を知り勉強になった。
- ・楽しく親しみをもって取り組めた。アレンジや作曲により箏がより身近なものになった。
- ・学生時代は西洋音楽中心で学んだが、やはり日本の音楽が根底にあるような気がする。
- ・奏法や音色のすばらしさも学び有意義だった。

[応用編]

- ・楽譜に自由に書いて、創作するのは本当によいアイデアと思う。
- ・箏の楽譜は音の長さが五線譜ほど複雑でなく、調弦によって楽曲の雰囲気が決まるので曲を作りやすいことがわかった。
- ・演奏できる喜び、工夫する楽しさが味わえる授業ができるようにさらに勉強して行きたい。
- ・和楽器ならではの魅力があるのを感じた。自校（支援学校）での実践に生かしたい。
- ・指導に当たって、体験だけにとどまらず、自分自身が伝統・文化のすばらしさに感動したことを明確に伝えられるように努めたいと思った。

